

すみいれ

著者	平木, 恭三郎
雑誌名	龍南
巻	2 1 3
ページ	5 2 - 5 3
発行年	1930-03-10
URL	http://hdl.handle.net/2298/6947

すみいれ

平木恭三郎

大砲のなりわたりけりまんじゆさげ

粟畑に小坊主道をたづねよる

里ちかくひがんの花を賣りにでる

百舌なくや麥取舟に渡し請ふ

花活のむかごこぼるゝ赤手まり

野川きて頭うづめる野菊かな

秋晴のだりやはおもき心かな

ほすすきに夕日の阿蘇となりにけり

梅の木に日の當りたるしぐれかな

すみいれ二日すれば反古もいるる

をすすきに日のかげりゆくしぐれかな

麥の葉のわづかに出でしみゆきかな

にはすみのさうび咲きけり夕時雨

あられふる夕となりぬふゆさうび